

鎌倉学生選手権事故報告と今後の安全対策

まず、2022年12月11日に発生した海上救助事故の内容を下記のとおり報告いたします。

発生日時:2022年12月11日 日曜日 午後15時半～18時半

発生場所:神奈川県鎌倉市材木座海岸からの鎌倉の湾内及び稲村ヶ崎にかけての海上

事故の状況と顛末

2022年鎌倉学生選手権大会(2022年12月10日～11日開催)の最終日の最終レース開始時の風向が北北東、風速が8m/秒と中風が吹いていたので、ビギナーのクラスは行わず、エキスパートクラス(116人)のみのスタートとした。

最終レース開始時刻が14時38分で、トップ選手は14時54分にフィニッシュしたが、このあたりから風速が急に上がり始める。短時間で平均10m/秒、最大13m/秒の強風となる。大半の選手がレースを継続して帰着したが、一方でセーリングの継続が困難な選手が出てしまい漂流者がでてしまう。

15時半より運営していたスタッフでレスキュー艇を出してレスキュー開始。自力で帰着した者、レスキューされた者が次々確認され帰着確認されるが、依然5人が漂流中と知れる。16時50分に海上保安庁にレスキュー要請。

大会運営スタッフにより、SNS等で漂流中の選手の人数とセイルナンバーを確認しつつ、海上保安署を含むレスキューをして頂いた関係者に伝える。そして18時48分最終的に全員の安否が確認された。

以上の状況で、海上保安庁、消防、警察の関係各所に救助をしていただく顛末となり多大なご迷惑をお掛けしてしまいましたが、各関係者様のレスキューのおかげ様で最終的には全員無事帰還できたことを心より感謝いたしますとともに、事故の原因を猛省し、今後の安全対策に反映させて、より一層の安全管理を行って参りたいと思います。

なお、追記として、レース公示の提出に不備があったことが後に判明しました。鎌倉マリン連盟様及び鎌倉漁業協同組合様への事前連絡が欠落していた事につきましては関係者様へ多大なご迷惑をお掛けしたことを深くお詫び申し上げますとともに、大会開催前の事前連絡と承認を周知徹底してまいります。

事故原因

1. レース公示の最終レース開始時刻14時半を過ぎた時点でレースを開始してはいけなかった。事実、最終レースを14時38分にスタートしている(あと1レース成立できると考えてしまった。)
2. 当日の風速の予測、日没時間の正確な把握ができていなかった。(いい風が吹いていて、いいレースができるだろうという感覚的なもの。結果的にレスキューが日没に重なる)
3. 漂流者発生時に、速やかに関係者に報告すべきだった。(自力帰着も含めて、自分たちでレスキューできるだろうという希望的観測があった)
4. 海上の情報と陸上の情報の連絡と共有が不足。緊急時の情報を統制できていなかった。(陸上海上スタッフの役割分担などの準備不足だった)
5. 不測の事態を想定した準備の欠如。船にガソリンを満タンまで入れていなかったことで2隻中1隻はレスキュー中にガス欠してしまった。
6. 運営船の数が少なかった。200名越えのレースで運営船2隻では無理があった。
7. 大会申請の不備による、関係者への事前情報不徹底があった。JWAをはじめ、鎌倉マリン連盟、漁協、消防への事前申請が無かったことも初動を遅らせたと思う。

今後の安全対策

*今回の事故から学び、今後の安全対策として活かさなくてはならない事。

1. 大会申請書類提出の徹底。主催、後援、協力者、地元消防への事前連絡、承諾確認。事後報告の徹底。
2. 帆走指示書に中止基準を明記する。
例:平均 10m/秒、波高2mが予測される状況にはレースは行わない等。
3. 陸上本部には、レースオフィサーを置くことの検討。
4. レスキュー艇を増やすことを検討する。(費用との兼ね合いあり)
5. 天候、風速の予測、日没時間の把握を徹底して、選手を含めレース運営のスケジュールに反映することを徹底。
6. 不測の事態が発生した場合の海上、陸上スタッフの役割分担の再確認と徹底。運営、レスキュー時のマニュアル化と定期的な訓練の実施。
大会に安全対策委員長を置き、事故発生時の全体の状況を把握し、レスキューを指示、いつ、誰が、誰を助けたのかを記録して、レスキュー情報を集約する仕組みの構築。
(レスキューマニュアルビデオを製作しようとしています)
7. 漂流事故発生時の連絡基準を決める。所轄ショップ関係者との連動でどのタイミングで海上保安庁に連絡するのかなどを取り決めて周知徹底。
8. 練習中だけでなくレース中の携帯の所持を推奨していく。
9. 自信のない選手を出艇させない工夫(バッジテストの活用)ウエアーの重ね着や飲み物を持参して、船に預ける習慣や環境作り。
10. 上記安全対策を学連組織の中で、代々引継ぎ継承していくこと。

上記に加え、12月20日に、専門家および経験者を交えての安全対策会議が学生主体で行われ、レスキューの方法などの具体的なアドバイスを頂く機会を得て、今後の安全対策及び今後の大会開催について何度も話し合いが持たれました。

今回の事故直後には、安全対策がしっかりと見直しされるまでは、学生による大会開催を自粛することとしておりましたが、その後に上記の内容で事故の反省とそこから学んだ安全対策の改善が図られている事を鑑み、
2023年1月14日-15日に関東学生選手権大会(神奈川県横須賀市津久井浜)が開催されることになりました。

安全を十分に配慮して開催致しますので、今後ともご理解とご協力のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

一般社団法人日本ウインドサーフィン協会(JWA)
理事長 石原智央

日本学生ボードセーリング連盟 (JUBF)
学連委員長 遠藤啓祥